

平成26年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

連携型中高一貫教育及び総合学科教育を基盤に、小規模校のメリットを最大限に活かし、将来の国際社会を担うリーダーや能勢地域を支える有為な人材の育成をめざし、子どもたちに時代の中を力強く生き抜く力を育む。

(1)「確かな学力の育成」

基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、これらを活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力などを身に付け、主体的に学習に取り組む態度を育む。

(2)「規律・規範の確立と豊かな心の育成」

生命と人権、自然と環境を大切にすることを態度やグローバルな感性を育むとともに、自らを律することができる規律・規範を身に付けさせ、心身の健やかな成長を支援する。

(3)「キャリア形成」

豊かな勤労観や職業観を身に付けさせるとともに、将来の夢や目標を持ち、進路を自ら選択・決定する力や、チャレンジ精神を育む。

(4)「家庭・地域とのつながりのある学校づくり」

学校・家庭・地域とが一体となって教育コミュニティを構築し、地域や生徒・保護者のニーズと期待に応える教育活動を推進する。

2 中期的目標

(1)「確かな学力の育成」への取組み

○自主的に学ぶ態度や習慣を身に付けさせ、生徒一人ひとりの学力を向上させる。

・少人数指導、習熟度別指導、放課後や長期休業中の講習・補習等の取組みを一層充実させる

○地域リーダー・グローバルリーダーの育成をめざし、地域の課題や国際的な課題を解決できる力を身に付けさせる。

・国内外の大学・高校、国際協力機関、地域企業等との有機的な連携を構築する。

・探求活動に主体的に取り組む態度や情報編集力、プレゼンテーション力等を育むための教育課程を編成する。

○教員の授業力を向上させる。

・校内研修や「生徒による授業評価」などを活用し、授業改善や授業力向上を図る。

(2)「規律・規範の確立と豊かな心の育成」への取組み

○教育相談体制を確立する。

・教員のカウンセリングスキルを向上させるための職員研修を実施し、教育相談を細かく行うことで中退防止や課題を抱える生徒に対する細やかな支援・指導を行う。

○自ら律する規律・規範意識を身に付けさせる。

・教職員全員が丸となり、欠席、遅刻、服装、頭髪、授業規律、携帯電話モラル、登下校時のマナーなどに対する指導を徹底する。

○修学上の配慮を要する生徒に対する指導・支援を充実させる。

・支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会を活用し、生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、将来の自立、社会参加をめざした効果的な指導・支援を充実させる。

○多文化理解や国際理解に係る教育を充実する。

・ユネスコスクールのネットワークや国際協力団体等との連携・交流を積極的に活用できる組織体制を充実させる。

○生徒の希望する進路の実現を達成する。

・生徒にそれぞれの将来像を描かせるとともに、一人ひとりに応じた3年間の計画的な進路指導を実践する。

・就職指導、進学指導の充実により、進路未決定者ゼロを実現する。

(3)「家庭・地域とのつながりのある学校づくり」への取組み

○学校・家庭・地域が一体となった教育コミュニティづくりを進める。

・コミュニティ・スクールを導入するための条件整備や準備を進める。

・能勢町の6次産業化に向けた事業に参画し、農産加工等での地域連携を構築する。

・小中学生等に対する農業や環境に係る授業、観光ツアー等の実施により、本校農場をグリーンツーリズムの拠点にする。

・「能勢高校を応援する会」からの支援や様々な地域との連携により、教育活動の活性化を図る。

(4)「中高一貫教育の再構築と学校改革」への取組み

○能勢地域連携型中高一貫教育の成果と課題の検証に基づき、平成28年度からの小中学校の統合等の中長期的な視点から小中高一貫教育を再構築する。

・平成26年度から能勢町が実施する「教育の魅力化事業（仮称）」に主体的に参画し、地元の小中学校等と一体となった能勢町の教育の魅力化にまい進する。

・地域の教育関係者等から成る「能勢高校の将来を検討する会議」「小中高一貫事務局会議」や「能勢高校学校協議会」等の意見を参考にし、入学者選抜を含めた中高連携の課題を解決する。

○これまでの教育成果を踏まえ、魅力ある学校づくりを進める。

・この10年間の総合学科の教育を総括し、新たな専門学科への改編を中心とした学校改革のプランを決定する。

・将来構想委員会等の校内組織を活性化するとともに、新学科への改編に向け大阪府教育委員会、能勢町教育委員会との具体的な協議を進展させる

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年1月実施分]	学校協議会からの意見
<p>1 生徒結果</p> <p>すべての質問項目で向上している。「働くことの大切さや進学することの意義を理解できている」(76%→83%)等によりキャリア教育の成果が見られる。「遅刻・頭髪・服装等、校則や生徒指導上のルールを守ることができている」(77%→81%)等により、基本的生活習慣での意識の向上が見られる。「能勢高校に入学してから、学力が向上していると思う」(58%→62%)「遅刻や私語がない等、集中して授業を受けることができていく」(64%→68%)学習に取り組む姿勢をなお一層、育成する必要がある。「学校に行くのが楽しい」(66%→75%)、「能勢高校に入学して良かったと思う」(61%→72%)により学校生活での満足度、充実度の向上が確認できる。</p> <p>2 保護者結果</p> <p>全般的に向上している。「学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」(76%→80%)「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」(73%→82%)「子どもを能勢高校に入学させて良かったと思う」(86%→89%)等により、本校への満足度の向上が見られる。一方、「子どもは家庭での学習を十分に行っている」(31%→31%)家庭での学習習慣の定着をより進める必要が認められる。</p> <p>3 教職員結果</p> <p>「学習への取組み」「キャリア教育、進路指導」「人権教育」で高い数値を示している。「本校は国際交流を推進し、生徒の国際理解や異文化理解を深めている」(92%→97%)、「本校が学校協議会や学校関係者評価を有効に活用し、教育活動の充実や向上に反映させている」(73%→83%)で著しい向上が見られる。一方、「教科や学年等により家庭での学習を充実させる工夫をしている」(55%→47%)ことから、家庭での学習の充実が課題として浮き彫りになった。</p>	<p>第1回 平成26年6月17日（授業見学・協議）</p> <p>・授業見学 少人数で手厚く教えてもらっている授業が多い。プリント学習より、生徒に考えさせまとめさせる授業が必要。農場の授業で、一人ひとり作文を書いたり、意見発表をしているのがよかった。</p> <p>・分掌の取組計画 H Pなどの速やかに広報活動ができるようにするべき。また、外部機関と連携し広報を行う必要がある。母校に愛着を持つような教育を進める必要である。28年度から小中学校の高校とがうまく連携すべき。</p> <p>・その他 学校協議会委員には積極的に教育成果を発言してもらい、地域と学校の橋渡し役になって欲しい。</p> <p>第2回 平成26年10月28日（授業見学・協議）</p> <p>・授業見学 教員の補助として住民の方がお手伝いするのが良いのでは。生徒に限られた時間を意識して実習できるようにするとなお良い。情報の授業で、地域で活用できるような作品づくりをするのも良い。</p> <p>・授業アンケート 2年生から3年生にかけて学習に取り組む意識が高くなっている。1、2年生は、来年、意識がより高くなることを期待する</p> <p>・その他 町民のボランティア活動に生徒が参加するなど、大人の参加する行事でアピールすると良い。</p> <p>第3回 平成27年3月5日（協議）</p> <p>・分掌の取組計画 生徒が主体的に地域等でのボランティア活動に参加すべきである。</p> <p>・授業評価アンケート結果 生徒の学習への取組み意識が低く、予習、復習に意識をもっと持たせる工夫が必要。結果分析を、有効活用して次の工夫に生かしてほしい。</p> <p>・学校教育自己診断 生徒、保護者で学校生活への充実度、満足度が高いことは素晴らしい。生徒にやる気を引き起こさせるような何かの工夫が次の段階として必要である。生徒・保護者のHPへの意識を高める工夫がほしい。様々な取組みがあるが、それでも中高一貫教育の成果が出ていない。中学校でも本腰を入れて中高一貫の良さをアピールしてほしい。</p> <p>・平成26年度学校経営計画及び学校評価 新たな改革に向けて取り組みが進んでいる。次年度も広げてほしい。</p> <p>・今後の取組み 能勢高校は能勢町にとって重要な位置づけであり、町全体で新たな改革に取り組む必要がある。</p>

府立能勢高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 自主的に学ぶ態度や習慣を身に付けさせ、生徒一人ひとりの学力を向上させる。</p> <p>(2) 地域リーダー・グローバルリーダーの育成をめざし、地域の課題や国際的な課題を解決できる力を身に付けさせる。</p> <p>(3) 教員の授業力を向上させる。</p>	<p>(1) 習熟度別学習及び放課後等の講習・補習の成果を常に検証し、土曜日講習をはじめ、効果的な学習形態や指導方法について研究する。</p> <p>(2) 探求活動に主体的に取り組む態度や情報編集力、プレゼンテーション力等を育むための教育課程について研究する。また、国内外の大学・高校、国際協力機関、地域企業等との有機的な連携構築を図る。</p> <p>(3) 反転学習の導入を視野に入れ、タブレットパソコンやインターネットによる映像授業など、ICT教育の活用方法を研究し、学ぶ意欲と学力の向上につなげる</p> <p>(4) 年2回実施する「生徒による授業評価」や授業公開を活用し各教科・学年・分掌等が一体となり授業改善や授業力向上につなげていく。</p>	<p>(1) 科目「課題研究」の開設を視野に入れ、課題解決的な学習内容を導入。</p> <p>(2) 「実力診断テスト」「実力判定テスト」で前年度より成績を向上させた2年次生の割合(60%)。「実用英語検定・漢字能力検定」の受検率・合格率(前年度の5%増加)。授業以外での学習時間を前年度より増加させた生徒の割合(10%)。</p> <p>・大学で英語合宿を開催。 ・グローバル人材育成に向けての講座を開催。</p> <p>(3) 第2回目の生徒による授業評価全体の数値を第1回目より0.5ポイント高める。</p>	<p>(1) 2・3年次では各系列に係る共通科目での学習内容の発表に留まった。科目「課題研究」の開設も含め、早急に課題解決的な授業内容を導入すべき。(△)</p> <p>(2) 実力判定テストで前年度より成績を向上させた生徒は60%。(○) 英検では、受験率は前年度より7%減少、合格率9%増加。うち2名が2級に合格。(○) 漢検では、受験率、合格率とも前年度より11%増加。(◎) 2学期末時点で、前年度より宿題をしている生徒が10%、予習復習をしている生徒が6%増加したが、日頃の家庭学習時間の確保に課題がある。(○) 大阪国際大学とは、外国人観光客への英語ガイドツアー、宿泊勉強会(英語合宿)、クリスマスソング交流等を実施、また大手前大学とも連携協定を締結。外部講師によるスーパーグローバル基礎講座を計14回実施(◎)</p> <p>(3) 第2回目の授業評価全体の数値は、目標を下回ったが、第1回目より0.3ポイント増加。(△)</p>
2 規律・規範の確立と豊かな心の育成	<p>(1) 自ら律する規律・規範意識を身に付けさせるため、生活指導を充実させる。</p> <p>(2) 教育相談体制及び支援教育体制を確立する。</p> <p>(3) いじめの事象の発生・深刻化を防止、いじめを許さない生徒の意識を醸成する。</p> <p>(4) 多文化理解や国際理解に係る教育を充実する。</p> <p>(5) クラブ活動を充実させ、学校の活性化につなげる。</p> <p>(6) 生徒の希望する進路を実現させる。</p>	<p>(1) 教職員全員が丸となり、欠席、遅刻、服装、髪型、授業規律、携帯電話モラル、登下校時のマナーなどに対する指導を徹底する。</p> <p>(2) 教員のカウンセリングスキルを向上させ、中退防止や課題を抱える生徒に対する細やかな支援・指導を組織的に行う。 ・高校生活支援カードを効果的に活用するとともに、保護者の同意を得て個別的教育支援計画を作成することにより、保護者と教員とが共通理解のもとで生徒を支援する。</p> <p>(3) 生徒・保護者・教職員が「いじめ防止基本方針」を共通理解するとともに、いじめ対策委員会等の組織・体制を確立する。</p> <p>(4) ユネスコ国際交流委員会の充実とユネスコクラブの活性化、マレーシア修学旅行の一層充実を図る。</p> <p>(5) 既存のクラブの精査、活動時間や教員の指導時間の確保などにより、クラブ活動を魅力あるものとする。</p> <p>(6) S P I 対策としての模擬テストの導入や社会人としてのマナーや教養を身に付けるための科目「社会人教養」を開設するなど、進路指導の改善を図り生徒の希望する進路を実現させる。</p>	<p>(1) 遅刻指導を充実させ、遅刻数を前年度より減少(前年度の10%)。</p> <p>・携帯電話スマートホンの使用やモラルについての指導を徹底。</p> <p>(2) カウンセリングスキルを向上させるための教員研修会を実施。</p> <p>・転退学者を減少(前年度の10%)。</p> <p>・高校生活支援カードの効果的な活用方法を研究。 ・保護者の同意を得ての個別的教育支援計画を作成。</p> <p>(3) いじめ防止年間計画に基づく取組を実施するとともに、いじめ事象を把握し迅速に対応。</p> <p>(4) ユネスコ高校生世界フォーラムへの参加。</p> <p>(5) 各クラブの活動状況を精査。入部率を増加(前年度の5%)。学校教育自己診断による生徒の満足度を向上(前年度の5%)。</p> <p>(6) 進路未決定者ゼロを実現する。</p>	<p>(1) 遅刻数は、前年度より35%減少、授業の遅刻数も40%減少。朝の立ち番を1年間継続的に実施。(◎) 外部講師による校内研修会により携帯電話・スマホに対する教員の意識や知識を向上。「校内での歩きながらの携帯・スマホを触る」ことを禁止したことから、廊下等での使用が激減。(◎) 2月には次年度に向けた指導を試行。スマホ等でのさらに踏み込んだ指導が必要。</p> <p>(2) 臨床心理士による校内研修会を2回実施。(○) 転退学者数は、前年度の57%減少。(◎) 従来からの保護者からの連絡票に加え、高校生活支援カードを導入したことにより、生徒情報が増加し、生徒理解・支援の充実につながった。(◎) 対象生徒がないことから保護者の同意を得ての個別的教育支援計画の作成に至らなかった。(○)</p> <p>(3) 合格者説明会、文書配布やHPを通じ、いじめに関する方針を生徒・保護者に周知・徹底。いじめ対策委員会、学年等の連携により、いじめ事象の予防など組織的に対応。(◎)</p> <p>(4) 生徒6名が岡山市等で開催の計6回の準備セミナー及び世界フォーラムにスタッフとして参加・活躍。国際理解教育の充実につながった。(○)</p> <p>(5) 3クラブを廃止し活動を重点化。全体の入部率は、指標を下回ったが、71%となり昨年度より1%増加。(△)</p> <p>(6) 卒業生全員の進路を決定できた。(◎)</p>
3 家庭・地域とのつながりのある学校づくり	<p>(1) 学校・家庭・地域が一体となった教育コミュニティづくりを進める。</p> <p>(2) 教育成果の積極的発信により、保護者や中学生、地域住民からの理解を深化させる。</p>	<p>(1) コミュニティ・スクールを導入するための条件整備や準備を進める。 ・大阪府教育委員会や能勢町等との具体的な協議を進める。 ・能勢町の6次産業化に向けた事業に参画し、農産加工等での地域連携を構築する。 ・小中学生等に対する農業や環境に係る授業、観光ツアー等の実施により、本校農場をグリーンツーリズムの拠点にする。 ・「能勢高校を応援する会」からの支援や様々な地域との連携により、教育活動の充実・活性化を図る。</p> <p>(2) ホームページの魅力化やニュースレター等の有効活用により、教育活動を積極的に発信する。</p>	<p>(1) 地域と協働での農産加工を実現、能勢ブランドの開発を研究。 ・学校教育自己診断による保護者の満足度を向上(前年度の5%)。 ・能勢観光ツアーの実施。 ・「能勢高校を応援する会」からの支援を恒常的なものとするなど本校への支援を一層充実。</p> <p>(2) 校内でのホームページの管理・更新体制を充実する。 ・能勢町広報誌へのニュースレターの折り込みを継続。</p>	<p>(1) 地域の食に関する専門家による農産物の加工実習を9回実施。能勢町の6次産業化を推進する「能勢町付加価値創造協議会」との連携を開始。(◎) 学校教育自己診断のほとんどの質問項目で保護者評価が高まった。満足度については指標を下回ったが3%増加し89%となった(○)。第2回目となる本校農場での観光ツアー(京都新聞旅行社と共催)を実施。観光協会・城東工科高校と共同で能勢観光アプリを開発。(◎) 能勢高校を応援する会からの支援は、新たな生徒の資格取得の費用補助と中学校保護者への本校理解などへの働きかけに拡大。(◎)</p> <p>(2) 各分掌に係るホームページ更新回数が増加。年3回のニュースレターの広報誌への折り込みが定着。今後は、能勢町外への広報も必要。(◎)</p>
4 中高一貫教育の改善充実と学校改革への取組み	<p>(1) 能勢地域連携型中高一貫教育の成果と課題の検証に基づき、中長期的な視点から小中高一貫教育を再構築する。</p> <p>(2) これまでの教育成果を踏まえ、魅力ある学校づくりを進める。</p>	<p>(1) 平成26年度から能勢町が実施する「教育の魅力化事業(仮称)」に主体的に参画し、地元の小中学校等と一体となった能勢の教育の魅力化にまい進する。 ・地域の教育関係者等から成る「能勢高校の将来を検討する会議」「小中高一貫事務局会議」や「能勢高校学校協議会」等の意見を参考にし、入学者選抜を含めた中高連携の課題を解決する。</p> <p>(2) この10年間の総合学科の教育を総括し、新たな専門学科への改編を中心とした学校改革のプランを決定する。 ・学校改革に向けて、将来構想委員会等の校内組織を活性化するとともに、大阪府教育委員会、能勢町教育委員会との具体的な協議を進展させる</p>	<p>(1) 平成25年度からの小中高の連携システムをより実効性のあるものに高める。 ・連携中学校の生徒の50%が本校に入学。 ・豊能町立中学校2校を連携中学校に加える。 ・入学者選抜方法を改定。 ・通学バスの運行。</p> <p>(2) 総合学科の教育内容を深化させる専門学科設置を決定。 ・学科改編に向けての作業部会等を設置し、新学科の教育内容や教育課程を具体化。 ・文部科学省のスーパーグローバルハイスクール事業の指定を視野に入れた取組を展開。</p>	<p>(1) 連携中学校の生徒の45%が本校に入学予定。来年度は50%を確保したい。(△) 連携中学校の拡大については未検討。(△) 平成28年度からの新たな連携型中高一貫教育の入学者選抜方法(案)を策定し府教育委員会に提出。(○) 能勢町外からの生徒に対する通学バスのニーズを確認。28年度からの運行を実現したい。(△)</p> <p>(2) 府教育委員会等との協議会を8回開催し、新たな学科の方向性を内定。能勢町教育委員会と連携し教育課程案を作成。(○) 新たに大阪国際大学、ユネスコスクールとの使える英語力を高める計3回の取組を実施するなど、平成27年度からのSGH指定に向け研究を深化させた。(○)</p>